

巻頭言

愛知医科大学病院

岸川 典明

新しい風によって

平成19年度も3ヶ月が過ぎ、筆者の周りの様々なものに変化が見られております。

昨年度のリハビリテーション業界に大きな変化を与えた「疾患別リハビリテーション料」や「リハビリテーション料算定日数制限」の新設が、患者を取り巻く医療、介護環境を大きく変化させたことに異を唱える方は少なくは無いはずですが、新しいことを始めることは、それを利用する側にとっての戸惑いや反発、また社会的反響が少なからず出てくるものですが、これほどまでの社会問題化への進展を予想することは出来なかったのでしょうか。また、年金の台帳整理の不備が浮き彫りになり、現時点での年金受給者のみならず将来の年金受給予定者までもが不安に駆り立てられております。

社会的とまではいいませんが様々な諸システムの変化は、10年、数十年という長期展望での適用を見据えたものでなければ、混乱が生じたときには「その場凌ぎ」の対応としか受け止められず、真の問題解決には至らないことになってしまいます。つねにシステムの利用者側の立場に身を置いた考えをも示していかなければなりません。

さて日本理学療法士協会(協会)による主導で「生涯学習システム」も本格運用となって10年以上経過しておりますが、担当部局ではプログラム内容や教本の改定など準備を進めているようです。やはり時代の変化に見合った改変が必要であるものと思います。さらに協会、愛知県理学療法士会(士会)ともに新執行部となりました。士会においてはシステムの大きな変化は今のところ起きてはいませんがそれを運用する人に変化があります。新しい風となるか、何も出来ない素人となるのか・・・この度、新執行体制の中、士会の学術局長を仰せつかり真価が問われることとなります。まさに今、その責任の重さを実感しているところです。

筆者の職場にも新人職員が数名入職し、何かが変わる予感を醸し出しています。その風を敏感に受け、新時代・今の時代に対応した業務管理システムを構築することが、新しい次の10年へと変化の風を味方につけ羽ばたけるものと思っております。

自動車レース最高峰F1の世界でも皇帝と呼ばれ続けたM. シューマッハの引退を受け、新しいチャンピオン候補が出現しています。若干22歳のルーキーが2年連続チャンピオンに立ち向かう姿は観戦する者にとっては新しい刺激となり、新時代の到来という歴史の証人となっているところです。

今、理学療法業界にとっては必ずしも順風とはいええず逆風なのかもしれません。逆風はダウンフォース(押さえつける力)を発生させますが、受け取る側の翼を変化させると揚力(持ち上がる力)を得ることが出来ます。新時代、新システムの到来に柔軟に対応し、また自らの翼を変化させることも時には必要なのかもしれません。

(平成19年6月20日記)